

りんご栽培情報第3号

令和2年5月25日
氷見市りんご組合
富山県高岡農林振興センター

■ 1 生育概況と当面の管理

本年の「ふじ」の満開は前年よりも3～4日遅い5月1日頃でした。結実は概ね平年並み～やや多いです。今後は摘果作業が早く終わるように作業を計画してください。

また、降雨が少なく土壌が乾燥する場合は、積極的にかん水を行い、土壌の乾燥を防ぎましょう。

■ 2 今後の病害虫防除

回数	時期	対象病害虫	散布薬剤名	希釈倍数	10a当 散布量	100㎡当 必要薬剤(g, cc)	防除実施日 (自己記入)
7	6月4日～ 6日頃	黒星病、輪紋病、斑点落葉病 黒星病、黒点病、褐斑病 アブラムシ類、キンモンホガ、カメムシ類 展着剤	※デランフロアブル 注 アントラコール顆粒水和剤 モスピラン顆粒水溶剤 マイリノール	1,000倍 500倍 4,000倍 20,000倍	500㎡	100cc 200g 25g 5cc	月 日
8	6月14～ 16日頃	輪紋病、斑点落葉病、褐斑病 アブラムシ類、モモンクイガ、ハマキムシ類 展着剤	ストロビードライフロアブル スミチオン水和剤40 マイリノール	2,000倍 1,000倍 20,000倍	500㎡	50g 100g 5cc	月 日
9	6月24～ 26日頃 (防除前に草刈を 実施)	斑点落葉病、輪紋病、褐斑病 リンゴハダニ、ナミハダニ 展着剤	パスポートフロアブル ダニゲッターフロアブル マイリノール	1,000倍 2,000倍 20,000倍	500㎡	100cc 50cc 5cc	月 日

※注 デランフロアブルが入手できない場合は代替薬剤のアントラコール顆粒水和剤を使用する。

*雨天続きで散布間隔が長くなりそうな場合は防除を前倒して行う。

■ 3 DMI 剤耐性の黒星病について

他県ではりんご黒星病の基幹防除薬剤(DMI 剤)が効かない耐性菌が確認され、大きな問題となっています。りんごの葉や果実に黒星病斑(写真1、2)を確認されましたら、富山県高岡農林振興センター園芸振興班(☎26-8476)までご連絡ください。



写真1 葉の病斑 (黒い斑点)



写真2 果実の病斑 (黒い斑点)

■ 4 赤衣病対策について

赤衣病による被害枝がほ場で散見されます。病斑は薄いピンク色のカビに覆われて、枝の裏側などを中心に見られます(写真3)。摘果などの作業中に病斑がないか確認してください。

降雨の続く梅雨時期以降は病斑が拡大する恐れがありますので、病斑部を切除、削り取りを行い、有機銅保護殺菌剤(バッチレート、年間3回以内)を塗布するとともに、殺菌剤(ポリオキシシリンAL水和剤 1,000倍 年間3回以内 収穫3日前まで)を散布してください。



写真3 主枝に発生した赤衣病

■ 5 仕上げ摘果について

仕上げ摘果は満開 60 日後の6 月末までに終了するようにし、以下の点に注意して行いましょう。

- 平均で 4～5 頂芽に 1 果を残すように摘果する。
- 形の悪いもの、小さいもの、病虫害被害果等は摘果する(写真4, 5)。
- 青実果になりやすい果台長が 2 cm 以上、果台枝が 20cm 以上の果そうは摘果する(写真6)。
- 20cm 以上の長果枝先端の果そうは摘果し、腋芽を来年の短果枝に育成する。
- 直射日光が当たり、果面が赤くなっている果実は日焼け果になりやすいため、摘果する。
- 樹勢が強い樹、上がり枝、樹冠外部にはやや多めに、樹勢が弱い樹、下がり枝、樹幹内部にはやや少なめに着果させる。



くぼみがある
果実が良い。

写真4 正常果
大きくて果形が良く、
果梗が太くて長い果実

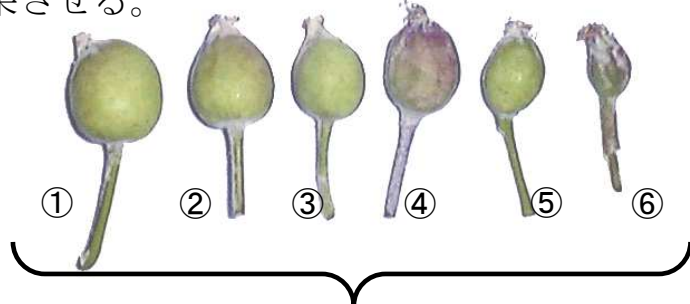


写真5 変形果、奇形果

①果梗から果頂部にかけて曲がっている、②果梗が短い、
③果形が悪い、④果実に筋がある、⑤小さい、⑥細い等。



果台枝が 20cm 以上伸びた果そうは全て摘果する。

果台が 2 cm 以上の長く伸びた果そうは全て摘果する。

写真6 果台と果台枝の例